



'To acknowledge the duty that accompanies every right'
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE OSAKA CENTENNIAL

G/O OSAKA YMCA
 1-5-6 TOSABORI, NISHIKU,
 OSAKA, JAPAN

2017年5月 No.420
 Chartered July 20, 1982

主 題 Y's THEME (2016~2017)	クラブ役員 Officers
センテニアルクラブ会長 : 『笑顔と感謝の1年に』 国際会長 : 『私たちの未来は、今日から始まる』 アジア地域会長 : 『ワイズ運動を尊重しよう』 西日本区理事 : 『ワイズ魂で、更なるワイズの活性化を!』 中西部部長 : 『世界をみつめ、地域とあゆむ』	会 長 : 藤井 大祐 副会長 : 三浦 直之 書 記 : 藤原 正巳 ドライバー : 松浦 孝次 会 計 : 岡本 剛介 メネット会長 : 松浦 和子 Y連絡職員 : 船戸 輝久

Biblical Message of May

心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず、常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば、主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。

(箴言3章 5-6節)

先祖を学ぶことは、未来への橋を築く

石津 雅人

私の行っている教会では、家族の系図を調べる活動を活発に行っています。戸籍謄本や除籍謄本を取り寄せたり、お寺の過去帳や位牌の情報をもとに系図の作成を行っています。十数年前までは手書きで作成していましたが、現在ではアメリカのユタ州ソルトレイク・シティにあるコンピュータとインターネットを介して系図の作成ができるようになっています。末日聖徒イエス・キリスト教会の教義は結婚と家族関係はこの世を越えて続くことを教えています。このためには家族が世界中にある主の神聖な神殿で結び固められることによるのみ可能となります。家族が永遠にとともにいることができるという知識が、忠実な末日聖徒が亡くなった先祖を探求するための力となっています。「先祖について学ぶことは、自分が何者であるかをさらに理解する助けとなる。そして家族の絆を作り、現在を過去につなげ、未来への橋を築く。」この理念とともに、ファミリーサーチはユタ州ソルトレイク・シティの家族歴史図書館を含む70か国の4,500の家族歴史センターにおいて世界中からの30億以上の名前データベースから個人への支援を提供することができます。現在は教会員が主になっていますが、将来は教会員外にもこのシステムが利用できるようになります。

【クラブ統計 Statistics】

4月		種 別	第1例会	第2例会	BFポイント		ニコニコ献金	
在籍会員	21名	メ	12名	11名	4月	Og	4月:	12,700円
例会出席	16名	ネ	5名	0名	現	金		
うちメーキャップ	0名	ジ	3名	0名	累	計		
出席率	76.2%	ス	1名	0名	切	手		
		ト	21名	11名	現	金		
		合					累計:	259,379円
		計						オクツツ: 5,400円

May Club Meeting

『LT(Leadership Training)』

5月第1例会

日 時: 2017年5月17日(水) 18:45~20:45

場 所: ホテルグランヴィア大阪

司会: 藤原 正巳 君

1. 開会 三浦 直之 君(会長代行)
2. ワイズソング 一同
3. 聖句朗読 中村 茂高 君(代読)
4. ゲスト・ビジター紹介 三浦 直之 君(会長代行)
5. 今月の強調月間 三浦 直之 君
6. 大阪Y「i-COSY」説明 花本 茜・大阪Y教諭
7. 晩餐 一同
8. 卓話「日本のキリスト教の現状と課題」
大阪基督教教会 岡村 恒・主任牧師
9. オークション 岡本 剛介 君
10. 誕生祝い・ニコニコ献金 一同
11. 連絡・報告・ニュース 各メンバーから
12. 閉会 三浦 直之 君(会長代行)

お誕生日: 隅田メン、藤井特別メネット

※プレゼントは、岡本剛介メンに用意していただきます。

例会担当: 2班: 木下、中村隆、中村茂、藤原、何、松田の各メン

5月第2例会

日 時: 2017年5月24日(水) 18:30~20:30

場 所: 土佐堀YMCA会館4階

3月に「次期会長主査研修会」に出席しまして次期の準備をするにあたり、次期の状況を全ては見通すことが出来ません。この道をどのように歩んで行くべきか、今その足を一歩踏み出すためには、新しい心を持って臨まねばならないと感じています。その時に「心をつくして主に信頼せよ」と教えられています。「自分の分別に頼るな」とも言うのです。明日に生きる知恵とはこういうことなのだと言書が教える言葉を心に刻み込んで、次期の歩みを踏み出したいものです。

(聖句選/コメント：石津 雅人)

4月第1例会報告

と き：2017年4月19日(水) 18:45~20:45

と ころ：ホテルグランヴィア大阪

春の陽気を感じる4月の例会は、メン、メネット、ビジター、ゲスト合わせて21名が参加し開催されました。

ハイライトは、昨年12月にYMCAが主催した聖地ツアーに谷川寛メン=写真=が参加し、エルサレム、ナザレ、ガリラヤ海、ベツレヘムなどを訪問したスピーチです。「イスラエルとパレスチナで何が起きているのか」と題された彼の話題は、現在論議を呼んでいる多くの論点が網羅されていました。

イスラエルは、1948年に新イスラエルが生まれた後、イスラエルとパレスチナを含む長年にわたる紛争が続きましたが、まず谷川メンは地域の地理的、政治的な特徴を私たちに紹介してくれました。アラブ諸国との戦争で4度勝ったイスラエルは、世界で最も先進国になっています。イスラエルはヨルダン川西岸の占領地に居座ってはいけないという度重なる国連の決議にもかかわらず、植民地を広げるためにヨルダン川西岸に領土を拡大しています。

ツアー中、谷川氏は新しく植民地となった、ベツレヘム近郊の村に住むパレスチナの農民を訪れました。彼のチームは、世界YMCAプログラムの下、パレスチナの農地にオリーブの苗木を植えることに従事しています。その中でチームはイスラエルの占領下でパレスチナ人に対して「不公平」があるのを観察しました。農民は、イスラエル政府から何度も何度も嫌がらせを受けたと語っていました。かつて恵まれていなかったユダヤ人は、今や中東の侵略者になっているようです。パレスチナ人にとっては、イスラエルとパレスチナの間の紛争は、米国のトランプ政権の誕生とともに厳しくなるかもしれません。谷川メンは、パレスチナ人の平和を願い、将来、パレスチナがイスラエルに併合されるかもしれないという懸念を示しました。

(英文報告から抜萃)

1. **ハワイヌアヌクラブ モーリス・シモニシさん**「Kanさんのレポート、聖地訪問と今、現地で起こっている不当な侵略(aggression)に光を当ててくれました」
2. **ハワイヌアヌクラブ ナオミ・アイモトさん**「聖地への興味深い旅のレポート有難うございました。素晴らしく教育的な記事でした」
3. **オーストラリア・セントラルコーストクラブ クリスティン・ディージーさん**「谷川さんの中東訪問についてのメッセージ、大変腹立たしい(provoking)思いで拝読しました」

【海外からの反響】

≡ ≡ ≡ ≡ Club Activities April, 2017) ≡ ≡ ≡ ≡

On April 19, our club's April meeting was held at Hotel Granvia Osaka with a total of 21 Y's men, Y's menettes, visitors and guests in attendance.

The highlight of the meeting was a speech made by our Mr. Kan Tanikawa who joined the tour to the Holy Land, visiting Jerusalem, Nazareth, the sea of Galilee, Bethlehem etc, organized by the World YMCA last December.

Titled "What is going on at Israel and Palestine", his topics covered a lot of current controversial issues worthy note.

At first, he introduced us the geographical and political features of the area where a longstanding conflict involving Israel and Palestine continue after new Israel was born in 1948. Having won wars four times against Arabic countries, Israel has now becoming a most advanced country in the world. Israel has been expanding its territories to the West Bank to expand its settlement, despite the repeated UN resolutions not to settle in the occupied zone of the West Bank of Jordan River.

During his tour, Mr. Tanikawa visited a Palestinian farmer living in a village near Bethlehem where new settlement advances. His team engaged in planting young olive trees in the Palestinian farm land under the World YMCA program.

While working, the team observed "Injustice" taking place against Palestinian under Israeli occupation. The farmer told that he was repeatedly urged by the Israeli government to move out, thus suffered harassments over and over again.

It seems that Jewish people, once the underprivileged, now turn out to be the aggressor in the Middle East.

The conflict between Israel and Palestine might become severe for Palestinian with the birth of pro-Israel Trump administration in the USA. So Mr. Tanikawa expressed his concern that Palestine might be annexed to Israel in the not too distant future, wishing this never happen and that the Palestinian people live in peace. Yen 12,700 was collected for the club's smiling fund.



3月14日のJICAの授業は、中央アジア・コーカサス地域の経済・税関行政の担当者を対象としたコースでした。その中にウクライナからの同国WTO（世界貿易機関）担当の女性がいました。Ms. Valentyna Golovenko さんです。授業中、彼女の質問は、2008年の世界金融危機以降日本の輸出を中心としたGDPはちっとも増えていないがなぜか？です。的をえた質問でした。確かに日本の輸出シェアは世界の貿易量というパイの中で低下し、競争力も落ち、GDPの伸びが鈍化しています。15年度の日本の経常黒字は18兆円で、ほとんどが配当などの所得収支の黒字でした。

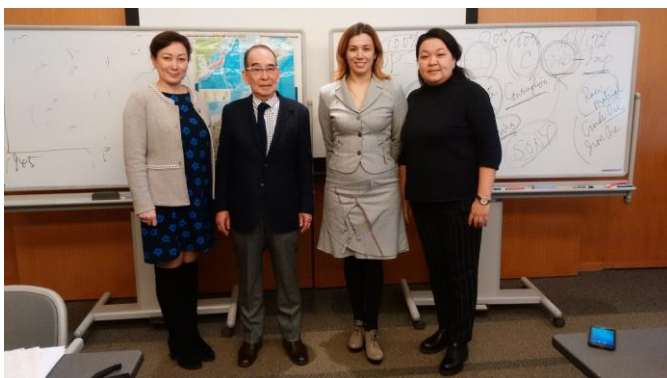
日本で生産した製品を海外で売るという従来のパターンが終わりました。海外での投資を通じて稼ぐという構造に変化しており、日本のような先進国はGDPに代わってGNI（国民総所得）が伸びている、と説明しました。

ご存知ウクライナという国、2014年に親ロシア派政権が崩壊したことを受け、ロシアのプーチン大統領は軍隊を投入してクリミアを占領するという虚に出ました。すでに3年が経ちます。クリミア併合を認めない米欧や日本の制裁が今も続いています。彼女の説明では、プーチン政権は、自国ロシアの経済低迷にもかかわらず、クリミアでは大規模な投資を行い住民の暮らしが以前より良くなった、と言わせるように、住民の支持のつなぎ留めに躍起だそうです。下の写真は、ヴァレンチナさんが自宅で焼いたウクライナ製のパンです。ウクライナから遙々持参してくれました。

穀倉地帯でとれた小麦粉を使用したパンは、1週間経っていましたが、ふっくらとしてケーキのような感触でした。



ヴァレンチナさんとパン



コーカサス地方の国々の税関の女性役人

4月第2例会報告

と き：4月26日（水）18:30～20:30

ところ：大阪 YMCA 会館4F

出席者：石津、大村、岡本、芝田、中村隆、中村茂、藤原、船戸、何、松浦、三浦の各メン

〈ワイズ活動〉

- ・うなぎの森 5/14（日）の確認
- ・大阪Y創立記念礼拝・Yボランティア（会員）研修会

〈クラブ活動〉

- ・大阪Yインターナショナル・ハイスクール学生「i-COSY」
- ・ファミリーコンサート チケット販売、準備状況確認
打ち上げ 18:00～、「マノ・エ・マノ」会費4千円
グルス登録のこと。
- ・6月例会 6/21 卓話「フィンランドを知ろう～この素晴らしき世界～」英会話教室講師
エリキ・ヒエタラフティ氏
1時間卓話。白板、CDプレーヤー準備
- ・西日本区大会でのIBC交流について
6/10（土）夕食会時に開催できるようテーブルを手中。
（第2例会議事録より抜粋）

緊急レポート「北朝鮮情勢を考える」

谷川 寛

北朝鮮が核兵器や弾道ミサイルの開発を進める中、米国はこれ以上進めれば軍力を直接行使すると威嚇しています。これに対して北朝鮮は、米国本土に届くミサイル(ICBM)を誇示するまでになっていました。米国はさらに包囲網を狭める覚悟です。しかし、対峙する両国が対話の機会を探り始めたのも事実です。

昨年末、イスラエル訪問の最後にヘブライ大学(Hebrew University of Jerusalem)を訪ねました。この大学は東エルサレムの一角のスコパス山という丘にあります。同志社の一神教研究会の講演で知り合ったヘブライ大学の先生に、イスラエル訪問のことを伝えてありましたので、出迎えてくれました。イスラエルの公共施設は、どこも入館にあたり、厳しい所持品検査があります。ご自分のゼミの学生も遥々日本から来客があるということから、待機してくれました。学生から開ロ一番に出た質問は、「日本は核武装をしているのか？」(Is Japan armed with nuclear weapon?)でした。唐突な質問に驚きましたが、すでに北朝鮮の動きを探知しての質問でした。日本には、「今でも核アレルギーがあり、憲法の制約もあり核保有は考えられない。」と答えるのがやっとでした。後で分ったのですが、イスラエルは、2007年に、シリアの核施設を空爆しました。それが、北朝鮮の支援で作られた原子炉でした。イスラエルは1981年にイラクの原子炉を空爆したのに続き、シリアの核武装も実力で阻止。「敵国がWMD（大量破壊兵器）Weapon of mass destructionを所有することを許さない」という国防方針を示しました。この攻撃は、核開発を進めるイランに対す警告でもありました。北朝鮮は、すでに通常のミサイルをシリア、イランに輸出しており、イスラエルはインテリジェンス機関を通じての情報収集能力に長けており、北朝鮮の動きは敏感に探知しています。私の答えは、イスラエルの人から見ると、（日本は北朝鮮のすぐ隣に位置し、民主国家でない同国に対して）抑止力を持たず静観するその態度は危機管理能力に劣った、まったく呑気な国に映ったようです。朝鮮半島の有事の際の対応を真剣に考える時期が来ているように思います。



ニコニコ・メッセージ



【Messages from the Club Members】

《ゲストからのメッセージ》

○1年に1度の好機、久しぶりに訪問させていただき感謝です。今年は創立20周年、親クラブとして随分お支え頂きました。成人後の1日1日は私にとって、とても有意義な日々に思っています。これからもよろしくお願い致します。

(今井 利子)

○久しぶりに訪問させていただきました。いつもの、ゆったりとしたクラブ風景を楽しませていただきました。谷川さんのお話、いろいろ考えさせられました。三大宗教の聖地なのに“平和”からほど遠いとは？

(杉浦 眞喜子)

○久しぶりに貴クラブに寄せていただきました。今日の卓話はむずかしく、民族間での問題の解決は、容易ではないことを知りました

(吉岡 香代子)

《会員、メネットからのメッセージ》

○イスラエル、パレスチナの戦い。各国が「我が国First」で、グローバリズムの対極にある争い。今日の国際情勢を予言しています。

(山中 秀男)

○家族で、バイブルスクールで習っていた時の話が重なり、改めてもう一度読み返したく思いました。

(山中ちあき)

○国際派のワイズメン、谷川兄の「イスラエルとパレスチナ最近事情」の卓話は、大変興味深いテーマで、目が開かれる思いで聞きました。感謝です。

(山田 孝彦)

○四天王寺(大阪・天王寺)の藤が咲き始めていました。紫の美しい花で、訪れた人々を歓迎しているようです。谷川さんのイスラエル訪問のお話、大変興味のあるお話でした。

(三浦 直之)

○谷川さんのパレスチナ～イスラエルの解説は、よかったですね。あまり知らない世界なので。今後、勉強いたします。

(松浦 孝次)

○多数のゲスト、ビジターをお迎えして賑やかな例会でした。司会の中井メネットはさすがに手慣れた名司会で、例会の雰囲気大いに盛り上げていただきました。谷川メンの卓話は、複雑に入り組んだ「イスラエル～パレスチナ」の事情を地理、歴史事情を含め詳細に説明いただき、よきスタディタイムとなりました。

(藤原 正巳)

○なかのしまの皆さんがお隣におられて、楽しい例会でした。

(中村 幸枝)

○結婚を機に洗礼を受けたので、その際に聖書について学びましたが、今日の谷川さんの聖地訪問のお話を聞いて、より詳しく読み直そうと思いました。

(中井 祥子)

○中之島のメンバーが来てくださってうれしかったです。楽しい食事の時間になりました。

(坂本 千春)

○イスラエルの状況を詳細に知ることが出来、よりよい知識を得ることができました。クリスチャンとして、一度行ってみたいと思います。

(石津 雅人)

○自分では行けない場所の事情や歴史の話を知ることが有意義な時間でした。

(岡本 剛介)



来期のキックオフミーティング開催！！

5月6日、改装された山西福祉記念会館で、来期会長の三浦直之メンを中心に、13名が集まり、クラブ運営方針、年間スケジュールなどが話し合われました。

三浦次期会長が「一期一会」のスローガンのもと、会員数の増員、皆で参画できるボランティア活動の計画、立案、1泊または日帰り旅行の企画、DBCの検討などの運営目標をかかげた後、メンバー同士がクラブ内のさまざまな課題について活発な意見を交わしました。

午後1時から5時まで話し合いが続いた後、1階のレストランで、おいしいビュッフェとお酒で、懇親を深めました。

後記

北朝鮮を中心に緊迫した国際情勢が続き、測り知れない不安をかかえながら日常生活をおくるなか、ハワイ・ホノルル空港が、日系人で偉大な政治家「ダニエル・イノウエ空港」に名称を変更するという話は、なんとほっと心をなごませる話題です。

先の大戦で片腕を失ったダニエル・K・イノウエは、1963年から50年、上院議員に在任した最長老であり、上院民主党の重鎮で、大統領継承権は第3位。米国史上、アジア系米国人が得た地位の中では最上位で、2012年に亡くなるまで在位しました。断固たる決意をみなぎらせる政治家だったといいますが、ホノルルのパンチボウル(墓地)には、「SUN OF HAWAII」と刻まれた石板がありました。今、ゆるぎのない断固たる信念が必要な時でしょうか？

S.N